



①ヘイトスピーチの実際

2年生では、毎年、人権学習として在日問題に取り組んでします。11月11日の第1回目は「ヘイトスピーチの実際」について学びました。特定の相手や団体に対する差別的な『書き込み』をネット上で目にしたことがある生徒は6割にもなります。また、中にはそのような書き込みによって傷ついたり、落ち込んだりした経験がある生徒もいます。今現在も、ネットを開けば、特定の人物・グループに対する悪意のある、差別的な『書き込み』が当たり前のように掲載されています。

1回目の授業では、ネット上にある在日韓国・朝鮮人に対する偏見、差別的な書き込みや、実際に鶴橋で行われたヘイトスピーチの映像を見ました。映像を見終わってから、「どんな気持ちになったか率直な気持ちを一言で表してください」というと、「ひどい」「やばい」「理解できない」「怖い」「すごい…」「意味がわからない」などの意見がでました。衝撃的な映像に、生徒たちも愕然としている様子で、「違和感」をほとんどの生徒がもったようでした。また、「なぜ、こんなことをするのか理由を想像してみよう」と問うと、「ネットの情報だけを見ている」「何も考えていない」「恨みをもっている」「悪い印象をもっている」などの意見がでました。

そんな学習の中で、『なぜ在日韓国・朝鮮人の人たちがこのような差別的な暴言をうけるの?』『そもそも、なぜ日本に多くの在日韓国・朝鮮人の人たちが住んでいるの?』『こんなスピーチをしている団体って一体何?』といった疑問が自然と出てきたように思います。子どもたちの「なんで?」から在日韓国・朝鮮人問題学習はスタートしました。

②日本と朝鮮半島の歴史

前回の授業から2・3回目の授業（11月21, 22日）では、『そもそもなぜ韓国・朝鮮の人たちが、日本にたくさん住んでいるのか？』という疑問について、日本と朝鮮半島との歴史・交流について学習をしました。

日本は、朝鮮半島からの渡来人によって「稲作」「漢字」「仏教」などの多くの文化を学びました（御所も渡来人とゆかりがあります）。そんな中、明治時代になると、欧米諸国のアジア植民地（欧米化の政策）が始まり、それに対抗するため日本は「富国強兵」政策→アジア進出→朝鮮半島の支配へと歩みを進めていきました。

そんな朝鮮半島との歴史を学習していく中で、

教師『強い国が日本を支配しようとしているとしたら、みんなならどうする？』

生徒「他の国に助けを求める！」「抵抗する！」「アジアで協力する！」「戦力をあげる！」

教師『じゃあ、隣の国が支配されようとしていたら？』

生徒「助けたる！」「日本と同じように強くさせたる！」

教師『確かになあ〜。朝鮮半島を支配したろう！と考えていた人もいたやろうし、今のみんなと同じように、助けよう！強くなる方法教えたらう！と考えていた人たちもいたんやろうなあ〜』

教師『じゃあ、今からちょっと劇するから、なんか気になる所あったら教えて！』

子どもたちの前で、教師で寸劇を行いました。結婚していない人に既婚者が、「結婚はいいよ！なぜ結婚しないの？早く結婚しやな！」としつこく結婚を勧めるといった内容でした。

生徒「ほっといてほしい」「価値観の押しつけはあかんやろ」「腹立つ」「めっちゃうつとうしい」

教師『なんで？よかれと思って教えたってただけやん』

『まだ結婚できてないからわざわざ教えたってんねんで？』

生徒「上から目線がむかつく」「勝手に押し付けてくるんはちがうやろ」

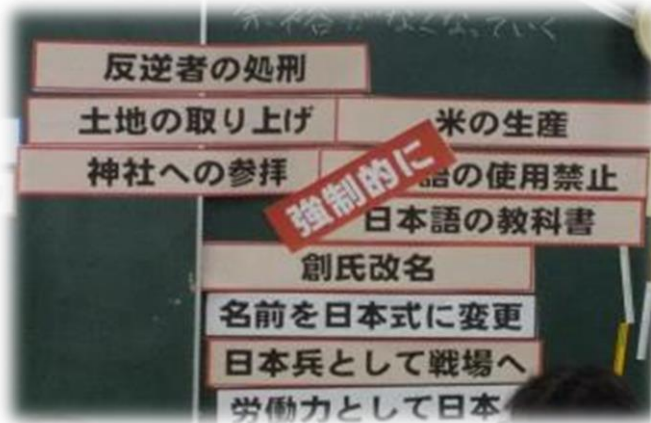
そんな子どもたちとのやりとりの中から「自分と異なる存在を理解する」という当たり前で、でもとても大切なことを確認し合いました。

また、日本が欧米諸国、アメリカとの戦争へと歩みを進めていく中で、日本の朝鮮半島の支配（植民地化）が強め、様々な政策（創氏改名・強制連行・日本語の強

要など)を「強制的に」行ったことも学びました。

そして、強制連行により日本に連れてこられた朝鮮の人たちが約200万人いたこと、戦争が終わってからもさまざまな問題で帰国できず日本に住むしかなかった朝鮮の人たちが約60万人いたことを学びました。

「歴史」ということで、話し合い活動が少なく、聞く時間が長かったのですが、しっかりと前を向いて話を聴いている子どもたちの姿がありました。



③在日韓国・朝鮮人の現在

4・5回目の授業(12月11, 12日)では、現在の在日韓国・朝鮮の人たちの権利や保障について考えました。子どもたちに次のような質問をして、青カード(Yes)か赤カード(No)を上げてもらいました。

1. 国は在日韓国・朝鮮人の最低限の生活を保障するべきだ。
2. 国は在日の人たちが母国の言葉や文化を学べる学校を作るべきだ。
3. 日本の会社は能力・適性があるなら在日の人も日本人と同じように仕事ができるようにすべきだ。
4. その他の権利も日本人と同じように保障されるべきだ。

これらの質問に対して、ほとんどが青カード(Yes)でした。

「じゃあ最低限の生活を保障するために消費税を20%に増税しよう」

と提案すると、赤カード(No)が多く「それは困る」、「まずは政治家の給料を減らす」など子どもたちは口々に自分の考えを発言していました。

「じゃあ1ヶ月、最低限の生活をするのにどう頑張っても2万円は必要だとします。今、手元に4万円しかありません。1万円を困っている人のために支払う(青)、支払わない(赤)どっち？」

結果は、わかれませんでした。(若干青カードの方が多かったかな)。子どもたちの中で

も葛藤が生じたようでした。「みんなが幸せになる方がいい」、「みんなのため」、「1万ぐらいなら」という意見。それに対して、「自分に余裕がないと他の人のことを考えられない」、「お金をたくさんもっているならわかるけど」「まずは自分が幸せにならないと他人に優しくできない」「みんなの幸せには自分の幸せも含まれている」などの意見がでて、自分と違う意見にしっかりと耳を傾け、「うーん」と考えている子どもの姿も見られました。私自身も「なるほどなあ」と思われました。



そんな中で今現在、在日の人たちにどんな保障がなされているのか。また、どんなことが議論されているのかについて学習しました。特別永住権など、在日韓国・朝鮮人の権利、選挙権や外国人登録などの問題。様々な課題が今なお複雑に絡み合っていて残っている現実が見えてきました。

「憲法では『国民』に権利を保障しているけど、この『国民』って一体何？」

「国籍を持っている人？じゃあ在日の人のように無理矢理日本に連れてこられた韓国・朝鮮籍の人は？」

「日本で生まれた人？」

「納税などの義務をはたしている人？」

「一定期間以上日本に住んでいる人？」

そんな子どもたちの「？」について、3学期も詳しく学習していきたいと考えています。